

# 福祉サービス第三者評価 評価結果

## 横浜市 今宿保育園

〒241-0034 横浜市旭区今宿南町 2000-4

運営主体：横浜市

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4 ページ
分類別評価結果	5～14 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	15～21 ページ
利用者本人調査分析	22～23 ページ
事業者意見	24 ページ

2007 年 3 月 17 日公表

評価機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

## 実施概要

事業所名	横浜市今宿保育園		
報告書作成日	2007年3月17日	評価に要した期間	約5ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

## 評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:06年10月2日～12月8日</p>	<p>職員会議等で説明し、職員・嘱託職員(福祉員)・アルバイト職員の全員がそれぞれ記入した。</p> <p>個人が記入した結果を会議にて1項目ずつ話し合い、意見交換しながら確認して記入した。園長も出席し、調整・確認を行った。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:06年11月20日～12月8日</p>	<p>全利用者(園児)の保護者(46家族)に対して、事業者(園)から手渡し。</p> <p>各保護者より、同封の返送用封筒にて評価機関宛に匿名で返送。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 07年1月9日 第2日 07年1月10日</p>	<p>第1日午前中は、各クラスの保育観察や5歳児の聞き取り調査、書類調査。昼食は各クラスで園児と一緒にいただく。午後は引き続き書類調査と、調理員に面接調査の後、園長・主任・福祉員に面接調査を実施。</p> <p>第2日午前中は、各クラスの保育観察と5歳児の聞き取り調査、書類調査。昼食は各クラスで園児と一緒にいただく。午後は引き続き書類調査と、各クラスリーダーに面接調査。最後に、園長・主任と意見交換を実施。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 07年1月9日 第2日 07年1月10日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施。園外への散歩にも同行した。</p> <p>聞き取り調査は、5歳以上の園児を中心に、観察調査時、および昼食同席時に、適宜実施した。</p>

## 総合評価（評価結果についての講評）

### 【施設の概要】

横浜市今宿保育園は1973年（昭和48年）に開設されました。定員66名に本年度は定員外で6名を受け入れており、園児は現在、72名です。1・2歳児、3歳児、4歳児、5歳児の4クラス編成です。園は八王子街道沿いの住宅地の中にあり、公園に隣接し、裏手には帷子（かたびら）川が流れ、近くには小学校やお寺があります。樹木も多く、落ち着いた環境に囲まれています。園舎は、鉄骨平屋建て、築33年を経過しています。

### 高く評価できる点

#### 1. 子どもたちは、一人ひとり大事にされ、のびのびと園生活を楽しんでいます

各保育室は一つの廊下で接しており、東南に面した園庭へは保育室より直接出られます。子どもたちは保育目標「友だちと一緒に育ちあおう、自分の思いを表現しよう、いきいきと生活しよう」のもと、一人ひとり大事にされています。

部屋での自由遊びでは、積み木、絵本、折り紙、そして訪問調査の日は冬休み明けすぐの新年だったので、坊主めくりや、コマ回しなど、自然に遊びの輪が作られていきます。その輪は入れ替わりながら、めいめい自分の選んだ遊びに加わっています。園庭では、ボール遊び、縄跳び、かけっこ、砂場、すべり台で、子どもたちはそれぞれ好きな遊びに集中し、年長の子も年少の子も一緒になって遊んでいます。年長の子とも年少の子ともが園庭を使うのに時間差を設けたり、活発な年長児にはネットでサッカーの場を別に作るなど工夫をしています。自由遊びの時間がきちんと確保されていることで、子どもたちはのびのびと十分に遊びこむことができます。

散歩では、年長の子が車道側に立って、年少の子の手をつなぎ、手を上げたりして年少の子に交通ルールを教えながら歩きます。午後の昼寝の後には、5歳児は1,2歳児の着替えのお手伝いに行きます。また、「リズムあそび」の時間は全員が集まって体を動かしたり、お互いに見たりしていますが、激しい動きのスキップの場面では、5歳児が先頭に立ち、後ろに続く年少の子を何度も振り返り、気遣う場面も見られ、自然な形で異年齢児交流が行われ、年長らしさが育っています。

#### 2. 職員の良きチームワークのもと、温かい保育園を形作っています。

園長・主任をはじめ職員全員が豊かな経験を持ち、チームワーク良く温かみのある園を形作っています。

全職員がすべての子どもたちを良く知り見守っており、担当以外の子どもたちのトラブルにもしっかり関わって、後で担任の保育士に報告をしています。また、子どもたちも自由遊びの時間には担任以外の保育士とも親しく遊んでいます。

職員たちは、夕方のミーティング、月例会議などを通して、常に情報を交換しあい相談しあって、一つになって子どもたちに接しており、福祉員も含めて、園全体がいつでも助け合えるチームワークができています。

また、職員のミーティングの時間を夕方に変えたり、子ども達がより落ち着けるよう、1・2歳児クラスを途中で2つのグループに分けてそれぞれに担当をつけるようにしたりと、保育士たちは日々工夫を重ね、柔軟に実践に移しています。

また、園内には、布製の手作り品が多く、職員の胸につける名札、保育室や調理室の入口のプレート、保護者への連絡帳入れポケットなどはパッチワークで作られています。棚のカバーも、牛乳パックで作った椅子も布でカバーをし、人形やおもちゃもプラスチックでなく、布製のものが多くあります。布を上手に使っていることも、園の雰囲気を変えて温かいものにしています。

### 3. 地域のニーズに沿って、子育て支援サービスの提供に努めています

保育園の地域における子育て支援が求められている中、当園は区と連携して積極的に子育て支援サービスの提供に努めています。

園庭開放は平日の午前に行われており、毎日 2,3 組の親子が園庭に来て園児たちと遊びを楽しんでいます。保育士は、園庭で保護者からの種々の相談を受け、対応しています。散歩先の公園で紙芝居を行う際は、公園に来ている親子連れにも「一緒に見ませんか？」と自然なかたちで参加を呼びかけています。交流保育として夏のプール開放や「リズムで遊ぼう」などを行い、地域に向けた育児講座も開いています。交流保育や育児講座では、参加した保護者よりアンケートで育児支援のニーズの把握に努めています。

また、区の福祉保健センター主催の「赤ちゃん教室」には、講師として保育士を派遣し、遊びの指導や手作りおもちゃを教えています。

今年度は、区の子育て支援事業の一つとして、0～3 歳児を対象に、身体測定と親子のふれあい遊びやワンポイントアドバイスをする「大きくなったかな」を、毎月、実施しています。本事業では、参加する子どもたちに、丁寧に装丁された写真入りの記録ノートをプレゼントして喜ばれています。

このように、地域のニーズを捉えた子育て支援サービスの提供に積極的に努めています。

## 改善や工夫が望まれる点

### 1. 安全対策の一層の推進を

園では、1973 年(昭和 48 年)の開設以来、社会の変化に応じて安全対策面などについても種々の対策を講じてきましたが、近年の社会状況を考えますと、施設に対する安全対策には出来る限りの工夫が望まれます。

利用者家族アンケートにおいても、多くの保護者が園の安全対策(不審者侵入に対する備えなど)について不安を感じています。

現在、園としては、門の電子錠化とインターフォン設置を計画していますので、早急な実施が望まれます。今後、隣接する公園のフェンスの高さなど、安全対策について広く検討を加え、保護者が安心して預けられ、子ども達がより安全に過ごせる環境づくりが望まれます。

### 2. 設備改善に更なる取り組みを

園舎は築 33 年を経過して保育園としては不便な所もありますが、職員は子どもたちに快適な環境をと、種々工夫を凝らしています。

大規模な改修は諸事情よりすぐには難しいとしても、優先順位をつけ、部分的にでも設備改善することで園の機能をすぐにでも改善することは可能と考えられます。例えば、たんぼぼ組(1・2 歳児)のトイレの臭い、幼児トイレの扉の開閉不良、各クラスから廊下側へのドア開閉が滑らかでないこと等があげられます。

また、保護者とのコミュニケーションを図る上で大きな役割を持つ掲示板は、現在、廊下の壁にありますが、保護者は、登園降園の際、ほとんどは園庭に面したテラスから出入りしますので、掲示板や食事見本の展示用ケースをテラス側に設置するなど、工夫が望まれます。

そのほかにも、調査検討を行えば若干の改善により、子どもたちにとっても、職員や保護者にとっても、より機能的で快適な環境の実現が可能と考えられ、区とも連携し、積極的な取り組みが望まれます。

### 1、人権への配慮

- ◇ 保育の基本方針「子どもが健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動し、健全な心身の発達を図る」に基づき、子どもたちは一人ひとり大事にされ、のびのびと園生活を送っています。
- ◇ 虐待の定義が全職員に周知され、心配なケースについては会議で情報を共有したり、家庭支援の必要な保護者については、特に心をくばり、声をかけるようにするなど職員全員で対応し、必要な場合には、関係機関に相談するなど連携が取れる体制になっています。
- ◇ 個人情報保護の取扱いについて、個人情報にあたるものは何かなど職員で確認しあい、ガイドラインを作っています。また、個人情報は所定の書架で管理されています。

### 2、利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援

- ◇ 保育理念や基本方針は、子どもの個性を尊重し自主性・主体性を育むものになっています。園では子どもの姿を肯定的にとらえ、子どもの力を信じ温かく見守る姿勢で、子どもが友だちと一緒に育ちあい、自分の思いを表現でき、いきいきと生活できる環境づくりを目標とした保育を行っています。
- ◇ 園児の送迎時における保護者との交流、連絡帳、年2回の保護者懇談会、年1回の保護者面談などを通して、保護者の意向や要望を把握することに努めています。

### 3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 園長・主任を中心に、福祉員・アルバイト職員も含めて全職員で緊密なチームワークを築き、整備されたマニュアルも活用して、優れた保育のしくみが形作られ実践されています。
- ◇ 職員会議、カリキュラム会議、毎夕のミーティング等を通して、全職員が運営に積極的に携わり、状況に応じて柔軟に対応しています。

### 4、地域との交流・連携

- ◇ 子どもたちは、日々の散歩を通して、また、お正月あそびの時、地域の老人会のメンバーに園に来てもらうなど、近隣の人々と日常的に交流しています。
- ◇ 園庭開放は平日の午前中に行われています。同時に、その場で保護者からは種々の相談もあり、丁寧に対応しています。毎年夏まつりや運動会に地域の方々も参加し、交流が図られています。
- ◇ 近隣の小学校とは交流事業を実施しており、今年度は小学3年生と5歳児で、器楽演奏の鑑賞・体育館での遊びを通して、楽しいひと時をすごしました。
- ◇ 区の子育て支援事業の一環として、0～3歳児を対象とした定期的な身体測定とふれあい遊びやワンポイントアドバイスを内容とした「大きくなったかな」を毎月、実施しています。

### 5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 保育理念や保育の基本方針が明確に定められ、各クラス・廊下・事務室内に掲示されています。また、年度初めと年度末に職員会議でも周知し、確認を行って実践しています。
- ◇ 園長は職員の自主性を尊重して信頼し、職員同士も互いに認め合い、職員全員が主体的に運営に参画をしています。
- ◇ 保護者へは、毎月の園だよりと年2回の保護者懇談会を通して園の取り組みや行事が伝えられています。また、昨年度は保護者に対してアンケートを実施し、結果を検討し、改善について取り組んでいます。

### 6、職員の資質向上の促進

- ◇ 園の人材育成計画を作り、実施しています。職員は、個々に資質向上に向けた目標を毎年定め、年に2回の園長面接を通して確認し、評価を受けています。
- ◇ 園内研修は、職員間で年間の研修テーマを定め、交互に講師を務めて、実施しています。
- ◇ 外部の研修にも、非常勤職員も含めて可能な限り参加するようにしています。また、受講内容を報告書にまとめ、回覧または報告会により伝えあい、知識の共有化を図っています。

## 分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。





「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

### 評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育理念は、「乳幼児の最善の利益を考慮し、保育すること」をあげ、子ども本人を尊重したものとなっています。また、基本方針には、「子どもが自己を十分に発揮しながら活動し、健全な心身の発達を図る」ことのほかに「地域における社会的役割を果たす」こともあげています。</li> <li>・ 保育士は子どもの姿を肯定的にとらえ、子どもの力を信じ温かく見守る姿勢で、子どもが友だちと一緒に育ちあい、自分の思いを表現でき、いきいきと生活出来る環境づくりを目標に保育を心がけています。</li> <li>・ 保育計画は、保育の基本方針に基づき、地域の実態や周囲の環境、保護者の就労状況や異文化の風習で生活する家庭などの実情を考慮して、年度末のカリキュラム会議で検討し、作成しています。</li> <li>・ 職員は、日々の保育の中で子どもの様子や表情から汲み取った意見・意思の情報を共有し、お互いに評価・アドバイスをしあい柔軟な考えをもつように全員が心がけています。</li> </ul>
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明会当日に面接を行い、入園までの生育歴や生活リズム、好き嫌いなど家庭での状況を把握・記録し、その日のうちに職員間で報告しあうようにしています。</li> <li>・ 新入園児を受け入れる時には、週1回行うリズムあそびの時間に、他のクラスの子どもたちに紹介するなど、早くなじめるように配慮しています。</li> <li>・ 指導計画は、第一に生活リズムを整え、次に保育士や友達と遊べるように支援することに心がけており、子どもの発達や状況に応じて、作成・評価・見直しを行っています。また、指導計画作成には、父母の会から要望のあった活動を取り入れているなど、保護者の意向にも配慮しています。</li> </ul>



- 3 快適な施設環境の確保



- ・各部屋に温度計・湿度計を設置し、ガス暖房とエアコンを使い分けています。また、子どもの様子を見て窓を開閉するなど、適切な状態に保つよう心がけています。なお、温度・湿度は日誌に記載しています。
- ・シャワー設備は乳児の保育室にありますが、各クラス担任が連携して利用しています。
- ・保育室は、押入れの下の空間を利用したり、テーブルや棚を移動してコーナーをつくったり、年齢ごとに時間差で園庭や保育室を使うなど、子どもたちの発達に応じて遊びやすいように工夫しています。
- ・3歳児と4歳児は午睡を同じ部屋にしたり、散歩や園庭で異年齢との交流ができるようにしています。また、平屋建てで、日常的に自然と異年齢児の間で交流する機会がたくさんあります。

- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力



- ・年間・月間指導計画に沿って、個別の状況に応じた保育を行っています。毎日のミーティングや午睡の時間などを利用し、子ども一人ひとりの様子について、職員間で情報を共有しています。
- ・特別の配慮を要する子どもについては、個別の目標・計画を毎月のカリキュラム会議で見直し、発達状況に合わせ、柔軟に変更・見直しています。
- ・園児一人ひとりの経過記録があり（横浜市共通）、4期に分けて記録し、その内容はカリキュラム会議で話しあい全職員に周知され、特記事項は進級時等に伝達されています。

- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・全保育士が西部療育センターの障がい児保育の実地研修に参加し、福祉員も研修を受け、共通理解のもとに保育方針を立て、話し合える体制になっています。
- ・障がいのある子どもには、個別指導計画を立てて、他の園児とともに育ちあえるような保育に努め、何らかの問題が起きたときには職員全員で解決するようにしています。また、保護者の気持ちを受け止め、運動会など保護者参加の行事では事前に内容を伝え、不安のないように配慮しています。
- ・全職員にアレルギー疾患についての必要な知識や情報が周知され、子どもの状態は職員間で情報を共有し、誰もが同じ対応ができるようにしています。
- ・文化・風習の異なる子どもの生活習慣などを理解し、尊重して、どの子どもも、無理なく園に慣れることができるよう配慮しています。
- ・宗教上、食べられない食材については代替品を使っています。また、無意識に友だちを傷つける言葉が出てしまった時などには、双方に相手の気持ちを理解出来るように説明しています。
- ・日本語の理解が難しい保護者への連絡は、外国語のパンフレットの利用や、同じ国から来ている保護者に協力を求めるなど、スムーズな意思疎通のために対応を工夫しています。


当機関では、障害を「障がい」と表記しています。

- 6 苦情解決体制






- ・職員誰もが保護者の気持ちを受け止め、相談にのれるように心がけています。
- ・入園説明会で第三者委員を紹介し、園内に意見箱を3箇所に設置し、行事後のアンケートをとるなど、積極的に保護者の意見を聞くようにしています。
- ・これまでの意見・要望は全て園で解決してきていますが、園単独で解決困難な場合には、外部の権利擁護機関や相談機関との連携体制が作られています。
- ・苦情や問い合わせは全職員に周知し、記録を解決に活かし、保育の質の向上に役立てています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊び、食事、午睡すべてが同じ部屋で行われていますが、園庭や保育室を時間差で利用したり、柵や牛乳パックで作った箱などを活用したコーナーを作り、子どもがそれぞれ落ち着いて遊べるスペースを確保しています。</li> <li>・一斉保育の予定なども状況によって柔軟に変更したり、子どもたちが好きなことをして遊びこめる時間を充分確保しています。</li> <li>・訪問調査の日は新年で、百人一首カードで坊主めくりなどの「お正月遊び」や、お手玉を使った玉入れなどの集団ゲームを入れて、子どもどうしてルールを教えたり、楽しさを伝えたりしています。</li> <li>・とうもろこし、綿、枝豆などの栽培を通して成育の様子を観察したり、収穫物を調理して他のクラスにご馳走する楽しみや、あひるの飼育を通して得られる体験などを、保育活動にフィードバックしています。</li> <li>・散歩の途中で地域の人たちとも交流し、帷子川では鳥の観察やコイにえさをやるなど自然と接し、「お店屋さんごっこ」の準備のために市場へ出かけ、肉屋、魚屋に訪問するなど、地域を知る機会を設けています。</li> <li>・週に1度、幼児クラスを中心にリズムあそびの時間を設けて体を動かしたり、歌を歌ったりして自分の気持ちを自由に表現しています。乳児クラスも状況によって参加し、大きな子どもたちの真似をして動きを楽しんでいます。子どもたちはリズムあそびの時間を楽しみにしています。</li> <li>・建物が平屋で、自由時間も豊富なため異年齢児交流は自然体でできています。幼児が乳児の着替えの手伝いや、遊び相手になるなどの関わりがあり、4歳児と5歳児は年間を通して、仲良しグループを作り交流しています。</li> <li>・それぞれの年齢のクラスが活発に活動できるように、時間差で園庭を使用したり、散歩に出かけるなど、屋外活動を積極的に取り入れて、発達段階に応じて運動能力を高められるような遊びの環境を意識して作っています。</li> <li>・子どもどうしのけんかは少なく見えましたが、必要なときは保育士は</li> </ul>



	<p>しっかり関わって、子どもの言い分をゆっくりと聞き、子どもが理解できるように話しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士はどのクラスの子とも、日常的に関わり、常に公平で温かい態度・言葉遣い等で子どもに接し、信頼関係を築いています。</li> </ul>
<p>- 1 保育内容[生活]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士は食事の支度の時間、食事を楽しみにできるような声掛けをしたり、栄養表を貼って、子ども達にクイズとして問いかけをしたり、自然と食事に興味を持つように支援しています。</li> <li>・5歳児は配膳に参加するなど、子どもが楽しみながら、自分から進んで食べようとする意欲や行動を大切に援助をしています。</li> <li>・時々、自由に席を選んで座る機会を作ったり、異年齢児と一緒に食事をしたり、気候の良い日にテラスにテーブルを運んで食事をするなど、楽しい雰囲気作りに心がけています。</li> <li>・調理員は、できるだけ子どもたちの食事の様子を見に行く機会をつくり、食事を作ってもらうことに子どもが感謝する気持ち、そして「おいしい！」という子どもたちの表情を調理員が見る喜びなど、子どもとのふれあいを大切にしています。</li> <li>・懇談会では、その日の手作りおやつを保護者に試食に出すなど、栄養・味付け・食べ方（噛み方）等、園で配慮していることを知らせています。</li> <li>・午睡の前に、絵本を読み、安心して心地よく眠りにつけるように工夫しています。また、5歳児や眠れない子ども、眠くない子どもには午睡を一斉活動とはせず、静かに過ごさせるなど柔軟な対応をしています。</li> <li>・排泄は個人差を尊重し、トイレトレーニングは一人ひとりの発達状況に応じて、保護者と連絡を密にして個別に対応しています。</li> </ul>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの健康状態を把握しています。</li> <li>・年に2回の看護師巡回相談の際や、月1回の育児支援事業に来る看護師から、生活リズム・食育・風邪予防についてなどの指導を受けたり、情報を提供してもらっています。</li> <li>・園児一人ひとりの健康カードを作成し、入園してから卒園するまでの、身体測定と健康診断の結果を記録し、保護者に記入することに見せています。</li> <li>・感染症が発生した時は、それぞれの症状や潜伏期間など記載したカードを各クラスに掲示し、速やかに保護者に情報提供しています。</li> </ul>
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生管理マニュアルがあり、その内容を全職員が共有するため、定期的に研修を実施しています。</li> <li>・トイレに清掃の仕方や清掃チェック表を貼り、いつも同じ清潔が保たれるようにする他、感染防止のため汚物処理の際は嘔吐物処理セットを使用するなどの具体策を講じています。</li> </ul>

- 2 健康管理・衛生管理・  
安全管理 [安全管理]



- ・緊急連絡体制は確立されており、通報や連絡の予行演習、地域の避難場所等への誘導など、各種訓練を実施しています。
- ・子どもがケガをした場合には、保護者にまず連絡をとり、かかりつけ病院についての確認をとります。実施した対応は、各クラスのケガ記録用紙に記録し、毎日のミーティングで小さなケガでも報告しあい、事例から学び、再発防止策の検討を行っています。
- ・定期的に不審者侵入訓練を行い、年に1回は、県の安全・安心まちづくり推進課の担当による、本番さながらの訓練を行っています。また、園児にも保育の中で防犯について指導を行っています。
- ・不審者等の侵入防止策として、門の施錠、午睡時の部屋の施錠を行っています。年度内に、門を電子錠に交換する予定がありますが、早期実施が望まれます。

- 3 人権の尊重





- ・子どもに威圧的な言葉を使ったり、せかしたりせず、大勢の前では注意をしないようにするなど、子どもの人格を傷つけないよう配慮しています。
- ・泣いている乳児は泣き止むまで抱いて安心させ、落ち着かない子ども、興奮している子どもは、場所を移して一対一で話して落ち着かせるなど、保育士が連携を取って関わっています。
- ・人権に関する研修を通じて、全職員が様々な人権問題を学び、日頃無意識に差別的な言葉を使っていないか、人格を傷つけるような言葉を発してはいないか、職員会議で話し合うようにしています。
- ・室内を工夫して友だちや保育士の視線を意識せず過ごせるコーナーを作っています。
- ・個人情報の取り扱いについて、個人情報に当たるものは何か、職員間で確認しあいガイドラインを作っています。また、カリキュラム会議の記録も保存分と担当クラス以外のものはシュレッダーにかけて廃棄しています。
- ・保護者との個人情報のやりとりの際にも配慮し、入園時に意向を聞き、健康診断の結果も封筒に入れてから、お便り入れにいれています。
- ・虐待の定義は全職員に周知され、心配なケースについては、会議で情報を共有しています。家庭支援の必要な保護者には、特に心をくばり、声をかけるようにするなど職員全員で対応し、必要な場合には関係機関に相談するなどの連携体制ができています。
- ・性差については、情報の交換を常に行い、無意識のうちに性差別をしていないか確認しあい、職員同士で反省する仕組みをつくっています。

#### - 4 保護者との交流・連携






- ・年2回開催される懇談会で、保護者に対して保育の基本方針について説明し、理解を深めています。また、昨年度は、保護者に対してアンケートをとり、その結果について職員間で検討し、改善について取り組んでいます。
- ・毎日の保護者との情報交換は、乳児クラスは連絡帳で、幼児クラスはクラスノートで行い、送迎時に、その日の子どもの様子を保護者にできるだけ伝えるようにしています。担任から福祉員（時間外保育担当者）への引継ぎは、書類と口頭で確実に伝えるようにしています。
- ・保護者からの相談について、良い雰囲気の中で実りのある相談ができるように、職員はカウンセリングの研修を受けています。
- ・職員は日頃から保護者に声をかけるようにして、保護者が安心して「行ってきます」「ただいま」と言えるように心がけ、良い関係づくりに努めています。
- ・保育内容など園生活に関する情報を提供するために、「園だより」などで随時、行事やトピックス的な園の動きを伝えています。
- ・保護者が保育参加する機会としては、園が開催する「親子で遊ぼう会」があり、日頃子どもたちが楽しんでいるリズムあそびの見学や参加をしたり、保護者会主催の芋ほりや移動動物園などがあり、多くの保護者が参加しています。
- ・父母の会役員とは年度初めに話し合いを持ち、園長、主任が出席するほか、役員が、いつでも相談に来られるように配慮しています。




## 評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の子育て支援ニーズは育児講座・交流保育の際のアンケートや、地域の関係機関との交流から得られる情報、および旭区主催の園長会議・運営責任者会議を通して、把握しています。</li> <li>・子育て支援サービスとしては、園庭開放（平日午前中）、育児相談（随時）、交流保育（年2回）、育児講座（年1回）、プール開放（年2回）があげられます。</li> <li>・0～3歳児を対象に、身体測定と親子のふれあい遊びやワンポイントアドバイスを内容とした「大きくなったかな」を、区の子育て支援事業の一つとして、毎月20組に対して行っています。本事業では、参加する子どもたちに、丁寧に装丁された写真入り記録ノートをプレゼントして喜ばれています。</li> <li>・この他、旭区福祉保健センター主催の「赤ちゃん教室」に講師を派遣して遊びの指導を行い、手作りおもちゃについて教えています。また、散歩で公園に行ったときに行う紙芝居には、公園に来ている親子連れにも声をかけ、一緒に見てもらっています。</li> </ul>
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園から地域住民への情報提供は、区役所内でのポスター掲示、市の広報誌・ホームページ掲載のほか、園の門や隣の公園への掲示などを通して行っています。</li> <li>・育児相談は、基本的には水曜日と決めています。随時受け入れています。ほとんどの相談は、園庭開放への参加がきっかけとなっています。</li> <li>・相談内容に応じて、関係機関や団体と連携ができる体制となっています。</li> </ul>

## 評価領域 開かれた運営




評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園に対する理解促進のための取り組みとして、夏まつりや運動会の際に、地域の親子に声をかけています。町内会・自治会との情報交換、今宿南小学校に係るスクールゾーン対策協議会への出席とパトロールへの参加などにも取り組んでいます。</li> <li>・地域の老人会の方と子どもたちとで「お正月遊び会」を行い、交流を図っています。</li> <li>・今宿南小学校との交流事業では、今年度は5歳児が小学3年生の器楽演奏を鑑賞し、体育館で一緒に遊びました。</li> <li>・まだ、地域の行事や活動に園児が参加する状況には至っていません。</li> </ul>
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市ホームページを使用して、園についての情報、育児支援についての情報を提供しています。</li> <li>・「園だより」を、町内会役員、小学校、民生・児童委員、第三者委員に配布して、園の活動状況について情報提供を行っています。</li> <li>・園の利用希望者からの問い合わせには、常時対応し、見学にも応じています。</li> </ul>
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア・実習生の受け入れに関しては、マニュアルがあり、受け入れの体制が整備されています。</li> <li>・ボランティアには、中学生・高校生の保育体験ボランティアがあり、次世代育成の観点から、積極的に協力しています。なお、育児支援事業「大きくなったかな」などで、園に登録のボランティアが活動しています。</li> <li>・ボランティアの感想や意見を園の運営に反映させています。</li> <li>・実習生の受け入れは年間の業務のバランスを考えて行っています。実習後に反省会を設けて意見交換を行い、感想や意見を園の運営に反映させています。</li> <li>・ボランティア・実習生ともに、終了後は、園児との間でお別れ会を行い、園児から手作りのプレゼントを渡しています。</li> </ul>

## 評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の理念や方針を踏まえた保育を行うため、人材育成計画を作り実施しています。職員は、個々に資質向上に向けた目標を毎年定め、取り組んでおり、年に2回の園長面接を通して確認し、評価を受けています。</li> <li>・園内研修は職員間でテーマを決め、交互に講師を務めて実施しています。今年度は5回、開催しました。</li> <li>・外部機関の研修・研究会には可能な限り参加しています。その内容は報告書にまとめ、回覧または報告会により伝え、知識の共有化を図っています。</li> <li>・個人ごとに「研修受講簿」を作成し、次期の研修計画に反映しています。</li> <li>・非常勤職員に対しての研修も、園内研修・外部研修など、職員と同様に実施しています。</li> </ul>
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議やカリキュラム会議を通して、また、区主催の障がい児に関する研修、人権研修等を教材として、さらに民間保育園・横浜保育室との交流の機会をとらえ、職員は保育技術の向上を図っています。</li> <li>・朝と夕方の保育が中心の福祉員と、日中の保育が中心の保育士が、お互いにそっくり業務を交換する「交換研修」の試みを行い、貴重な気付きの場となっています。</li> <li>・夏には、「リズムの会」より講師を招いて指導を受け、園における「リズムあそび」の取り組みに反映させました。</li> </ul>
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は個々に、年度の実行目標を定め、目標に向けて取り組んでいます。</li> <li>・業務の改善については、毎夕のミーティング、毎月の職員会議、カリキュラム会議等を通して話し合い、柔軟に対応し実践に移しています。</li> <li>・園長は、年に2回の職員との面接を通して職員の意見や要望などを把握し、やりがいや満足度を高めています。</li> </ul>



## 評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者として守るべき、法・規範・倫理等を業務マニュアルの中に明記し、周知徹底を図っています。また、事業運営等に関わる情報は区の園長会議等より入手し、職員会議を通して説明しています。</li> <li>・ゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーについては、ゴミの分別収集、牛乳パックやプラスチック容器を活用した遊具の製作、節電・節水の徹底など、横浜市の「横浜 G30 プラン」に添った活動に取り組んでいます。また、今年度は ISO14001 環境マネジメントシステムに関する横浜市の内部監査を受け、取り組み状況を確認しています。</li> </ul>
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念や基本方針は、業務マニュアルに明記されると共に、クラス内、廊下、事務室内に掲示し職員に周知しています。</li> <li>・重要な意思決定にあたっては職員会議、保護者との懇談会や父母の会等を通して説明しています。</li> <li>・主任は、スーパーバイザーとして個々の職員の業務状況を把握しており、適格な助言・指導を行うとともに、精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう具体的な配慮を行っています。</li> </ul>
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長は、事業運営に影響のある情報を旭区主催の園長会議などを通して収集し、職員会議等で職員に伝えています。</li> <li>・保育園運営に関しての中長期計画の策定は、旭区において行っています。</li> <li>・次代の保育園運営に備え、職員を研修に参加させるなど、人材育成に努めています。</li> </ul>

## 利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2006年11月20日～12月8日
- 2、実施方法 事業者から直接利用者家族に配付(手渡し) 同封の返送用封筒にて評価機関宛匿名で返送
- 3、回収率 67.4% (46枚配布、31枚回収)
- 4、所属クラス 1歳児4人、2歳児3人、3歳児9人、4歳児8人、5歳児3人、無回答4人。

ただし同一家族で複数名が在籍の場合には下の園児のクラス。

### 設問ごとの概要

#### 【問1】 保育園の保育目標や保育方針について

45%の保護者が知っています。更に、“知っている”と回答した保護者の93%が「目標や方針に賛同できる」と回答しています。

数値45%は、「知っている」「まあ知っている」を合わせたもの。

#### 【問2】 入園する時の状況について

ほぼ80%以上の保護者が満足しています。

数値80%以上は、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせたもの。以下同様。

#### 【問3】 年間の計画について

「年間の計画について」は、約80%が満足していますが、保護者には早め早めに説明を行い、又は情報を提供して、出来るだけ参加や理解を得られるよう、努めることが望まれます。

#### 【問4】 日常の保育内容について

「遊びについて」は約90%、「生活について」は90%以上の満足度です。日常の保育に関して、保護者からはかなり高い満足度が得られています。「ケガに関する保護者への説明について」の満足度90%は、保護者とのコミュニケーションを重視する園の取り組みが評価されていると考えられます。

#### 【問5】 快適さや安全対策について

園舎が築33年と古いこともあり、「園舎、園庭などの施設について」満足度は65%にとどまっています。「外部からの不審者侵入に対する備えについて」は、58%の保護者が不満と回答しています。門の施錠について、隣の公園との境のフェンスの高さについて不安を感じています。

数値58%は「不満」「どちらかといえば不満」を合わせたもの。以下同様。

#### 【問6】 園と保護者との連携・交流について

ほぼ80%の保護者は満足していますが、送迎時に、子どもの様子についてもう少し説明が欲しい、という要望が出されています。

#### 【問7】 職員の対応について

「お子さんが大切にされているか」「園生活を楽しんでいるか」は、それぞれ84%、97%の満足度ですが、「不満や要望を気軽に言えるか」「不満や要望への対応について」の問に関しては20%近くの不満回答があります。

#### 【問8】 総合的な評価について

回答された保護者全員が満足しています。

### 結果の特徴

- ◇ 保育目標や保育方針について、保護者に対し種々の機会を捉えて説明していくことが望まれます。
- ◇ 安全対策については、早急な対策が望まれます。
- ◇ 年間の計画についての情報提供、送迎時の説明、意見や要望を汲み取る機会などについて、今後とも検討と工夫が望まれます。
- ◇ 総合的な評価について保護者全員が満足していることは、園に対する強い信頼の表れと伺えます。

## 利用者(園児) 家族アンケート集計結果

実施期間：2006年 11月20日～12月8日

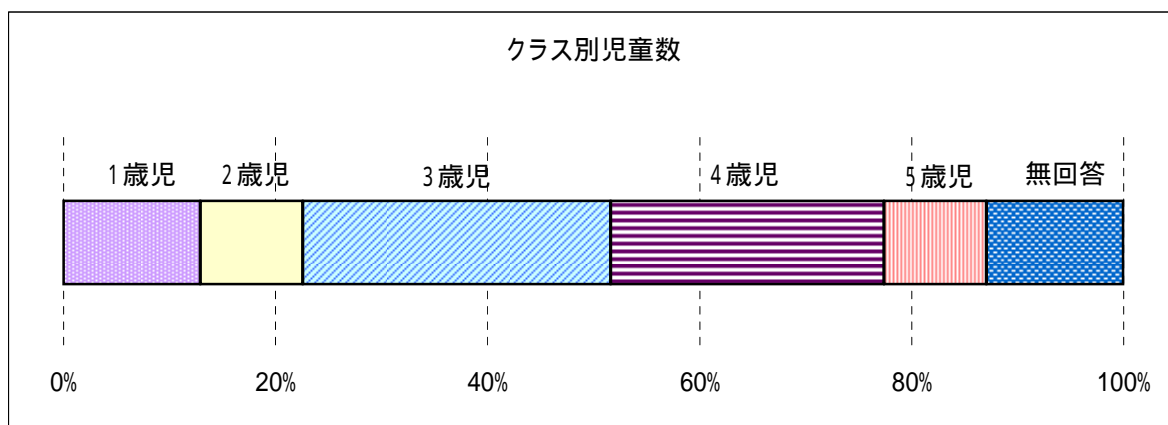
回収率：67.4% (回収 31枚 / 配付46枚)

### 【属性】

クラス別児童数 複数在籍の場合は、下の子どもで記入

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	無回答	合計
	4	3	9	8	3	4	31

0歳児保育は、行なっていません



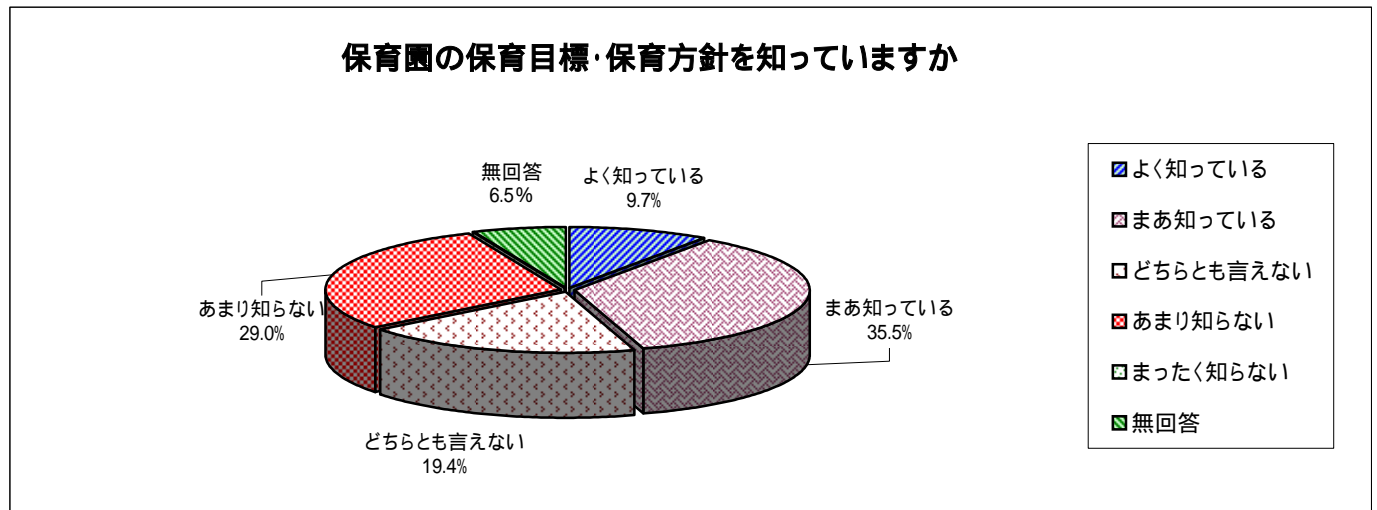
## 保育園の基本理念や基本方針について

### 問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	9.7	35.5	19.4	29.0	0.0	6.5	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

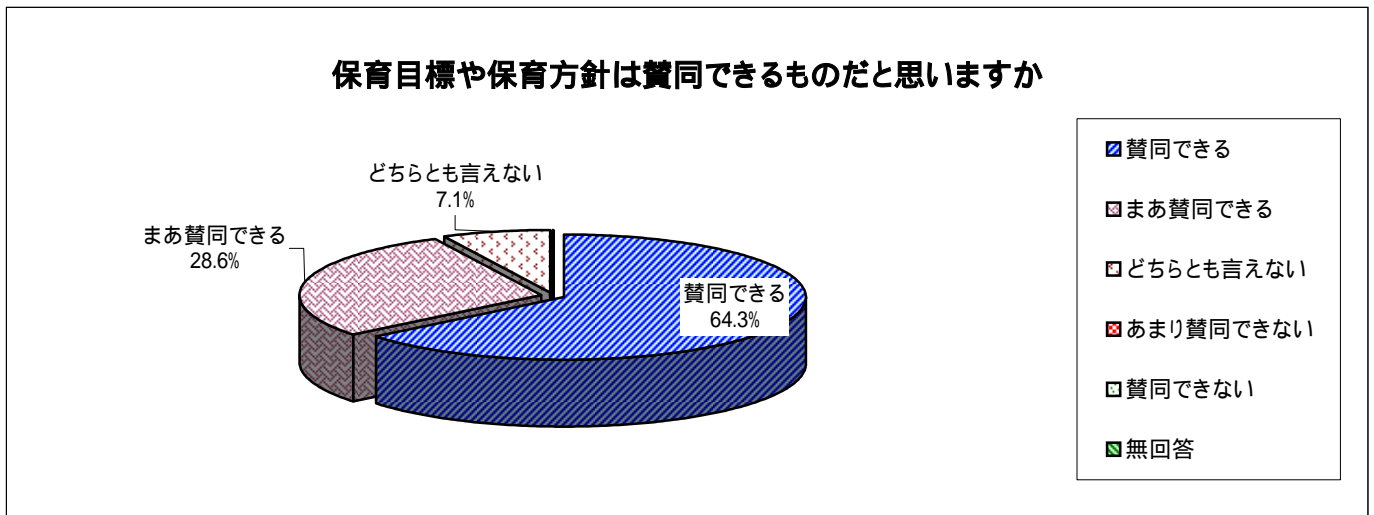


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

### 付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

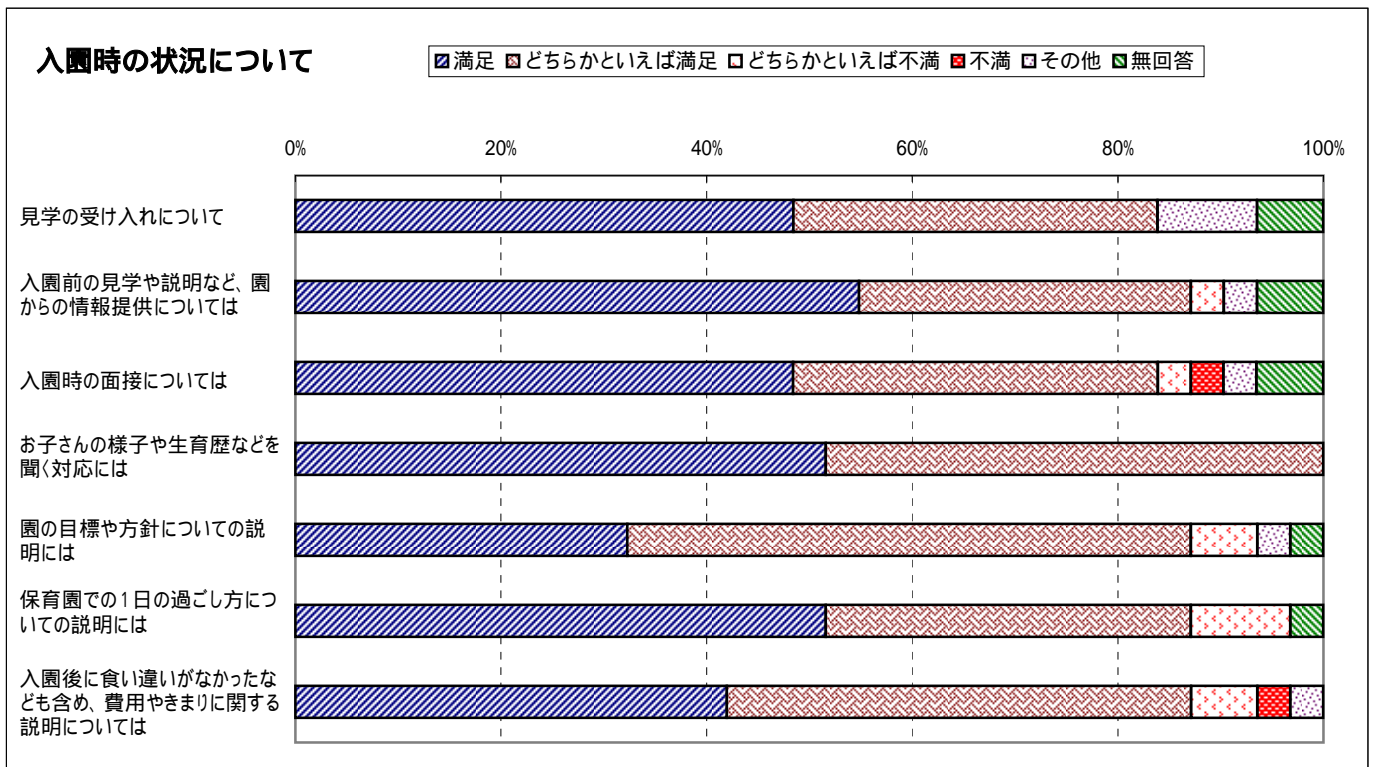
付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	64.3	28.6	7.1	0.0	0.0	0.0	100



## 保育園のサービス内容について 問2 入園時の状況について

(%)

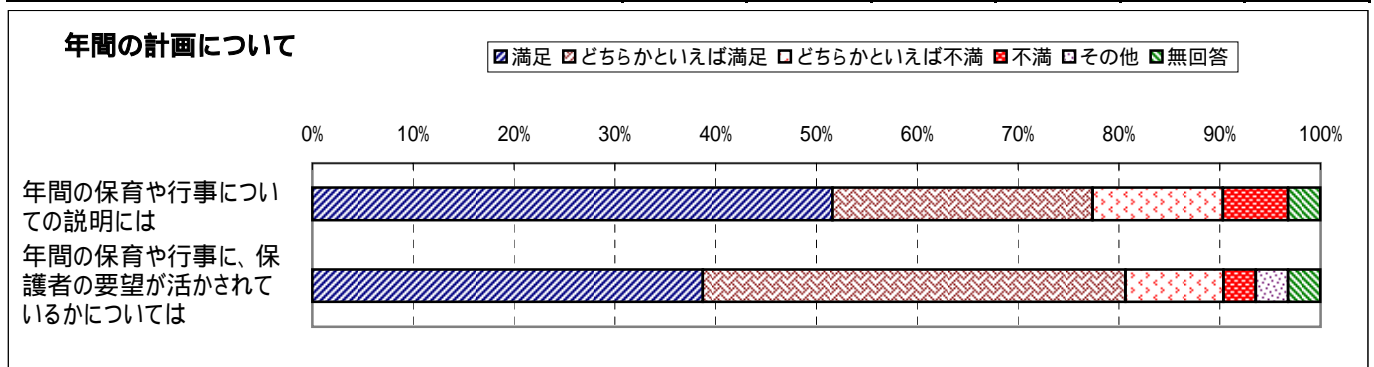
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	48.4	35.4	0.0	0.0	9.7	6.5	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	54.8	32.3	3.2	0.0	3.2	6.5	100
入園時の面接については	48.4	35.5	3.2	3.2	3.2	6.5	100
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	51.6	48.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	32.3	54.8	6.5	0.0	3.2	3.2	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	51.6	35.5	9.7	0.0	0.0	3.2	100
入園後に食い違いがなかったなども含め、費用やきまりに関する説明については	41.9	45.2	6.5	3.2	3.2	0.0	100



## 問3 年間の計画について

(%)

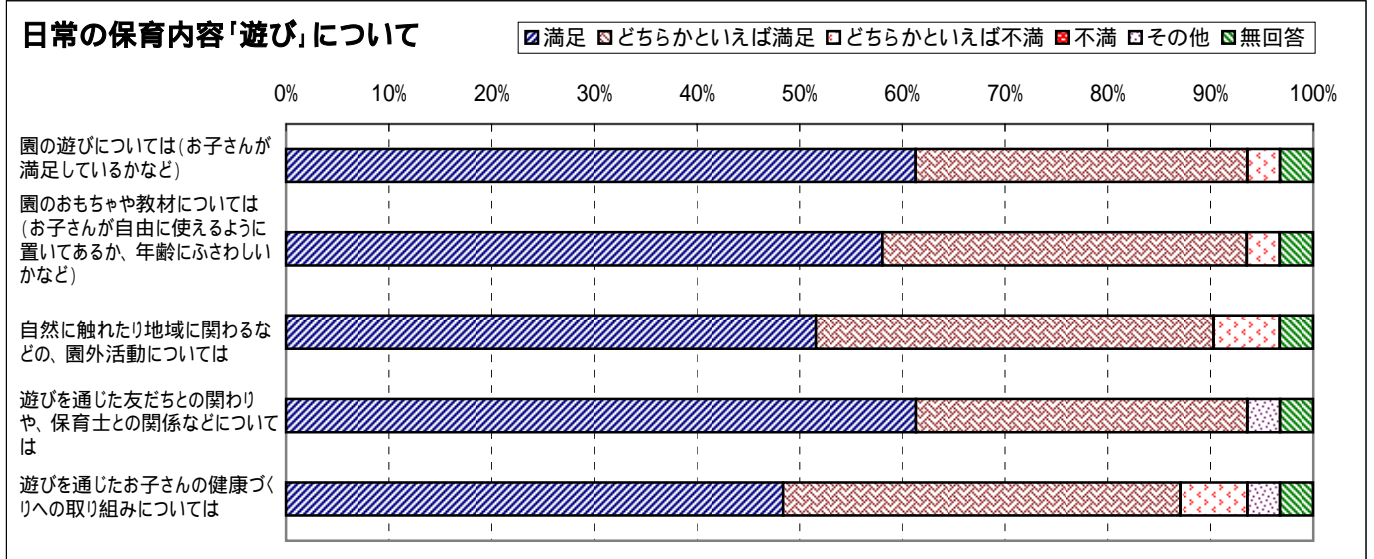
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	51.6	25.8	12.9	6.5	0.0	3.2	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	38.7	41.9	9.7	3.2	3.2	3.2	100



#### 問4 日常の保育内容について

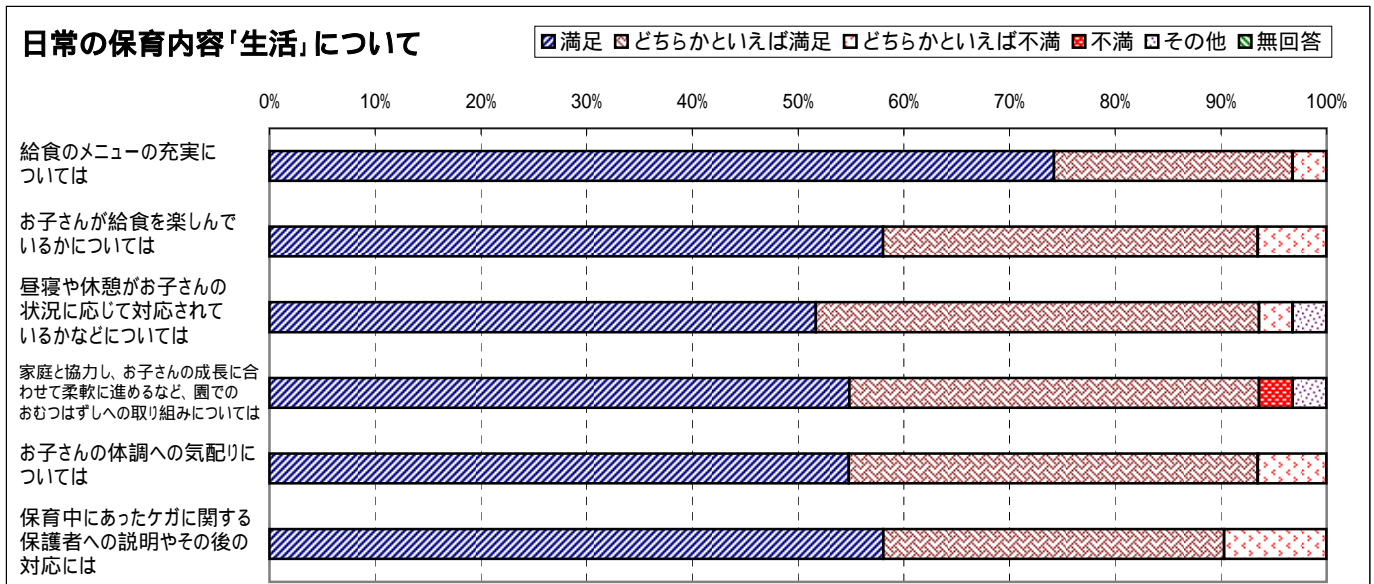
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
	園の遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	61.3	32.3	3.2	0.0	0.0	3.2
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	58.1	35.5	3.2	0.0	0.0	3.2	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	51.6	38.7	6.5	0.0	0.0	3.2	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	61.3	32.3	0.0	0.0	3.2	3.2	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	48.4	38.7	6.5	0.0	3.2	3.2	100



(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
	給食のメニューの充実については	74.2	22.6	3.2	0.0	0.0	0.0
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	58.1	35.5	6.5	0.0	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	51.7	41.9	3.2	0.0	3.2	0.0	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	54.8	38.7	0.0	3.2	3.2	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	54.8	38.7	6.5	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	58.1	32.3	9.7	0.0	0.0	0.0	100

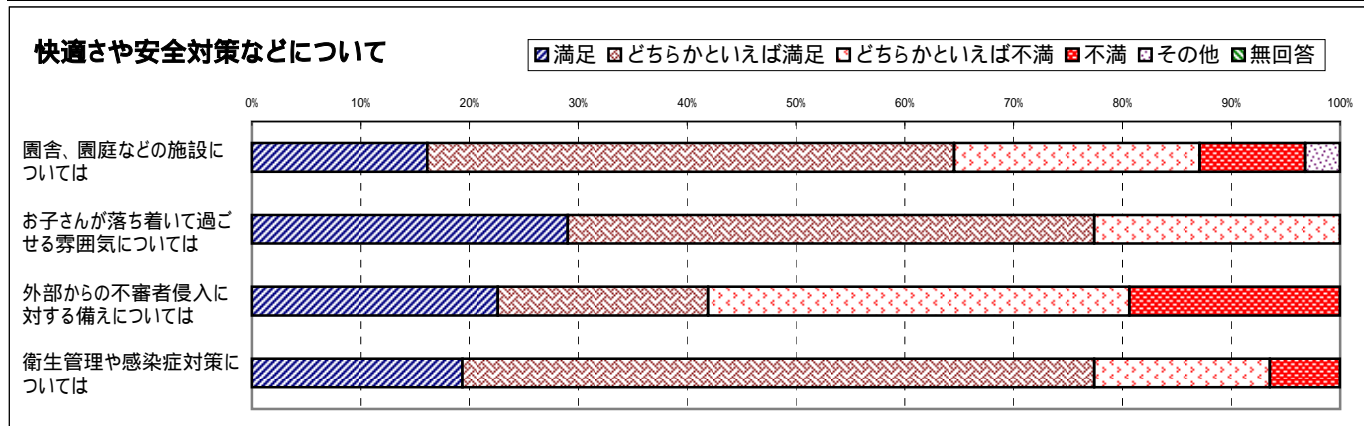




## 問5 快適さや安全対策などについて

(%)

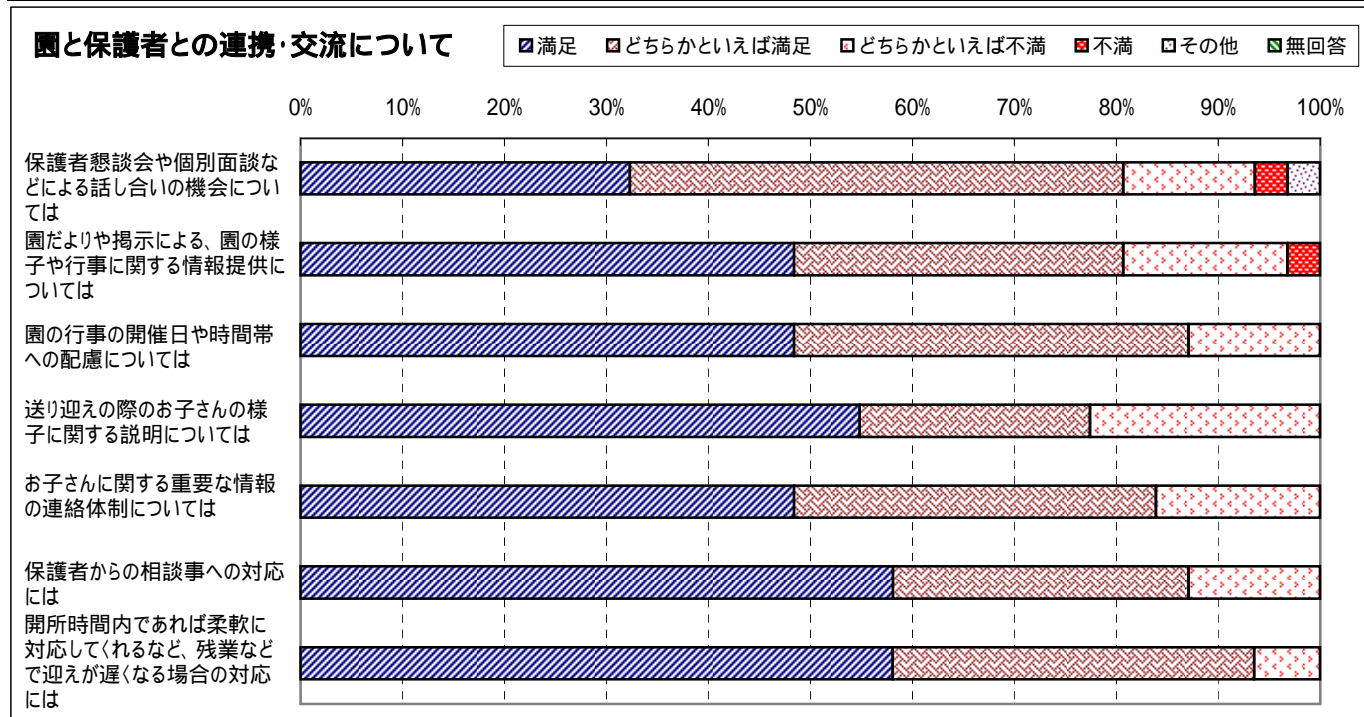
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園舎、園庭などの施設については	16.1	48.4	22.6	9.7	3.2	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	29.0	48.4	22.6	0.0	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	22.6	19.4	38.7	19.4	0.0	0.0	100
衛生管理や感染症対策については	19.4	58.1	16.1	6.5	0.0	0.0	100



## 問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

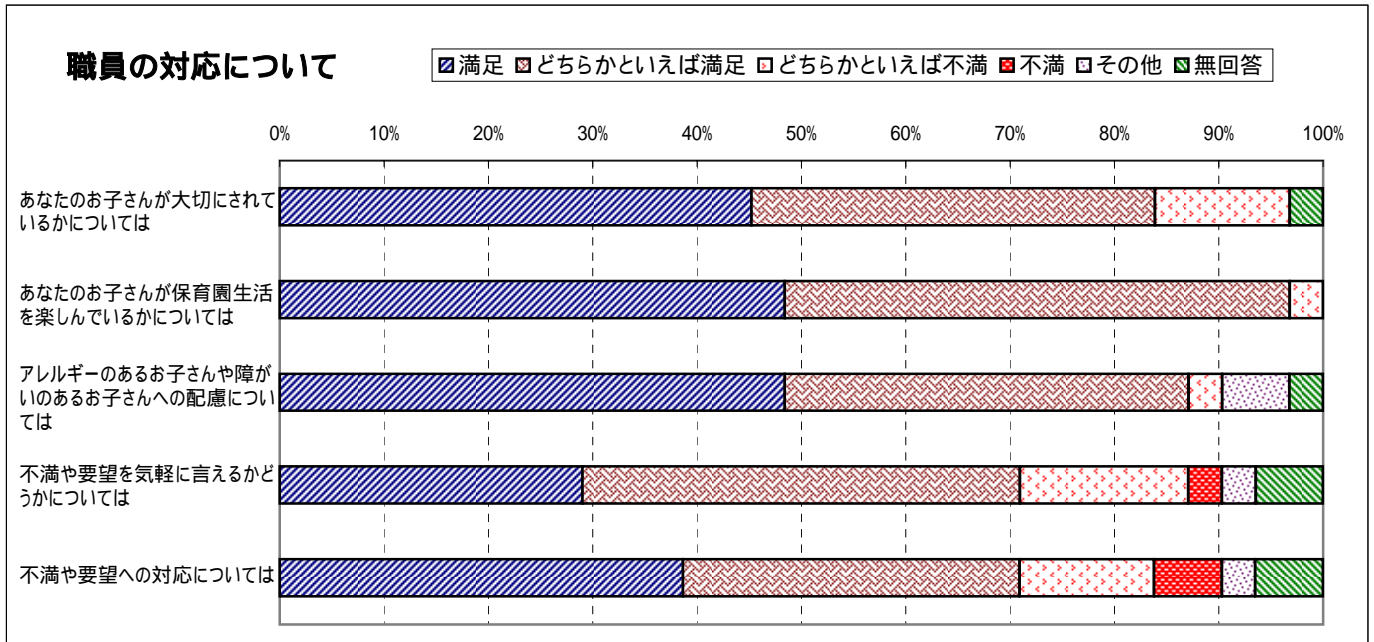
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	32.3	48.4	12.9	3.2	3.2	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	48.4	32.3	16.1	3.2	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	48.4	38.7	12.9	0.0	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	54.8	22.6	22.6	0.0	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	48.4	35.5	16.1	0.0	0.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	58.1	29.0	12.9	0.0	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	58.1	35.5	6.5	0.0	0.0	0.0	100



## 問7 職員の対応について

(%)

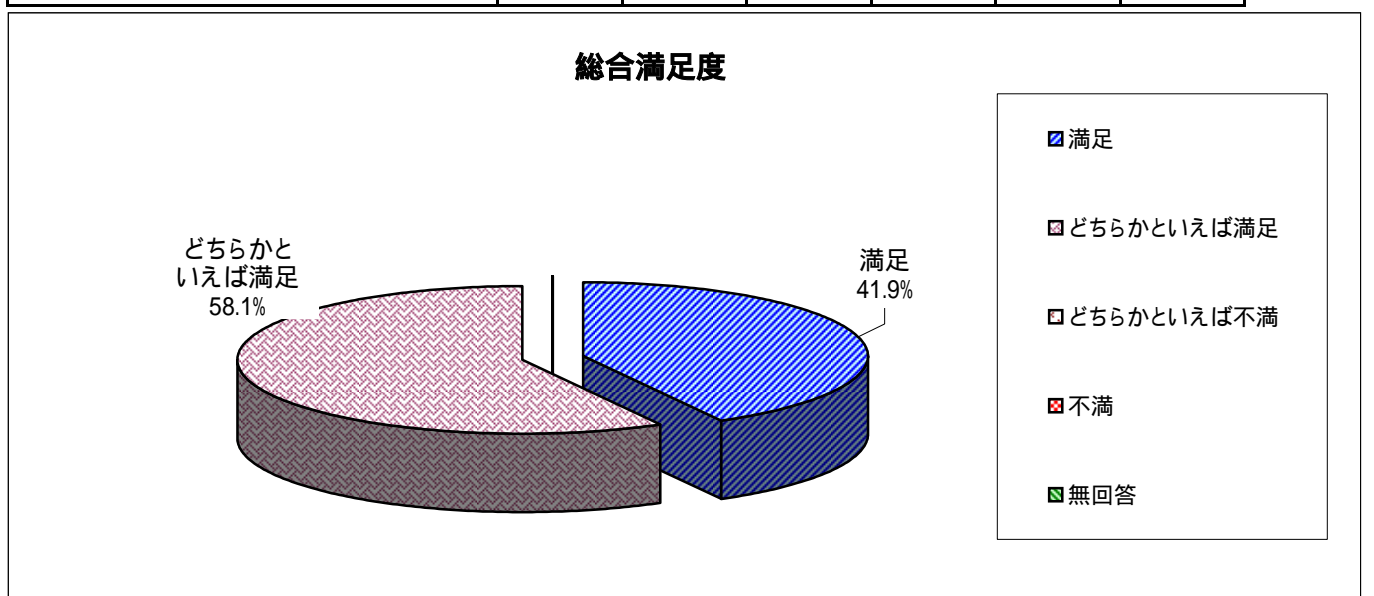
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	45.2	38.7	12.9	0.0	0.0	3.2	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	48.4	48.4	3.2	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障がいのあるお子さんへの配慮については	48.4	38.7	3.2	0.0	6.5	3.2	100
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	29.0	41.9	16.1	3.2	3.2	6.5	100
不満や要望への対応については	38.7	32.3	12.9	6.5	3.2	6.5	100



## 問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	41.9	58.1	0.0	0.0	0.0	100



## 利用者本人調査 分析

観察調査 2007年1月9日(火) 8:30~17:30、 1月10日(水)7:30~16:30

観察中に5歳以上の園児に適宜、聞き取りを行いました。

訪問調査の初日は、小・中学校の新年始業の日であったため、この日に登園した園児はいつもの半数ほどでした。長い休みの後なので、子どもたちがまだ落ち着かず、この日の保育内容は、各クラス担任の保育士の判断で一人ひとりの様子に応じたものとなっていました。

### 1. 遊びについて

室内遊びでは、新年らしく、百人一首カードによる坊主めくりや自分の名前の書き初めなどのお正月遊びをしている姿が見られました。

自由遊びの時間には、お雛様の折り紙や積み木など、数人のグループ毎に遊んでいます。一人で絵本を読んでいる子がいたり、グループも離れたり集合したり、遊びの中身によって自由に動いています。はさみやのりなどは譲り合って使い、遊びの中に入るときには、「仲間に入 - れ - て」と声をかけるなど、なんとなくルールがあり、ままごとや、ヒーローごっこも男の子と女の子と一緒に、楽しんでいる様子が見られました。

自由遊びの後には、自分たちで遊具を片付けます。また、園庭一杯を使って、保育士も加わって走りまわり、追いかけたり、逃げたり、タッチしたり、隠れたり、異年齢児が自然に混じって遊んでいました。

園庭遊びでは、なわとび、三輪車、二輪車、ジャングルジム、すべり台、うんていなどで遊んでいます。男の子たちは、ボクシングスタイルの格闘技らしき遊びが見られました。子どもに聞くと、格闘技の様な遊びは、「ドラゴンボールごっこ」、追いかけっこは、「ドロケイ(泥棒と警官)遊び」と言い、今とても流行っている遊びとのことでした。園庭では、異年齢児が自然と交わり、小さな子が危ない事をしていると5歳児が優しく注意し、注意された子が素直に従っている場面も見られました。

部屋の環境は、各保育室とも押入れの下や棚などを工夫して、様々なコーナーができていて、子どもたちが遊びやすくなっています。各所に布を使用し、手作りのものもたくさんあり、暖かみのある空間となっています。この手作りの品々は福祉員が手の空いているときに少しずつ造っているとの事でした。

乳児は、月齢によって2つのグループに分け、成長に合わせた保育をしています。子どもは、興味にあわせて、どちらの遊びにも自由に参加することができ、保育士もそれを自然に受け入れています。

乳児も幼児も、片付けがとても上手です。紙芝居やエプロンシアターなどが始まると、興味津々で集中して見えています。絵本の読み聞かせや、布団に入るときなどは、小さな声で「静かに」と保育士が言うと、本当に静かにできる子どもたちです。

### 2. 食事について

食事時間は、保育士や同じテーブルの子どもと楽しくお喋りはしていますが、落ちついて食べています。

幼児クラスのお当番さんが配膳を手伝う間、みんな静かに席について待っています。給食は全部を食べると、おかわりができることになっていて、自分でできる子どもは自分でよそいます。おかずから食べて主食は後に食べている子どもが多いように感じました。

お喋りが大きくなり過ぎると、保育士が注意をしますが、全体的にはゆっくりと、残すことなく食べています。食べられずにいる子どもは、保育士に口に入れてもらうこともありますが、無理強いされることは無く、「残しても良いですか?」と意思表示をすれば残すことができます。

4歳児と5歳児が合同で、仲良しグループに分かれて食事をする「仲良し給食」があり、4歳児は時間がかかるため、少し早く食べ始めるように配慮され、異年齢児とともに楽しく食事を楽しんでいます。

「好きな食べ物は、カレー」という子どもが多く、他には果物や野菜をあげていましたが、嫌いな物には、ピーマンという子どもが多く、「みかんやいちごが嫌い」という子どももいました。

### 3．排泄について

幼児は散歩に出る前やリズムの前などに、「トイレは済ませて」と保育士に声をかけられると、自分でトイレに行きます。

乳児は、保育士におむつやパンツをはずしてもらおうと、自分でトイレに行きます。保育士は、できるだけ、こどもが自分でおしりを拭いたり、手を洗うように、さりげなく支援しています。園庭で遊んでいるときも、トイレトレーニング中の子どもは、保育士がタイミングを見て声をかけると、自分でトイレに行っていました。

### 4．清潔・健康について

顔色や態度をみて、調子が悪そうな子どもは、保育士が時々、熱を測ったり、上着で体温調節をしています。保育士の様子を見て、そばにいる子どもも、布団を敷いてタオルを掛けてあげるなど気遣う様子が見られました。保護者から、「休み中に風邪を引いていた」などの情報を聞いている子どもには、特に注意して様子を見ています。

散歩から帰った後や、園庭での遊びの後には、子どもたちは、自分で靴を脱ぎ、入室前にたらいを使って流水で足を洗い、タオルで拭いてから室内に入ります。

### 5．いやな思いへの対応や権利を守ることにについて

遊び、散歩を通して、全体的には、子どもがいやな思いをする場面や、もめごとの場面は非常に少なく感じました。

散歩の途中、子どもが泣き出した時には、保育士が時間をかけてその子と周りの子どもたちから話を聞き、他の子どもたちにも聞いた事情を話して聞かせ、子どもたちが納得した様子を確認してから帰途につきました。

カードゲームなどの順番でもめた時や、子どもが不注意で他の子を転ばせてしまったときなども、保育士は注意をして謝らせますが、そのあと、双方の子の気持ちを代弁し、相手の立場になって考えられるように支援しています。

### 6．職員について

全園児が参加するリズムの時には、他のクラスの保育士にも名前を呼んで応援するなど、子どもたちは自分のクラスの担任だけでなく全職員に親しみを感じている様子を感じられました。

子どもがプールの柵に上るなど危険な行動が見られたり、もめごとが起きそうな状態になると、いつの間にか保育士がそばに来て対応しています。

登園時に、お母さんと別れがたく泣き出した子どもは、保育士がだっこして、落ち着いて自分から遊び始めるまで待ちます。登園時の保護者と保育士の様子は、ほとんどが挨拶をする程度ですが、体調の悪い保護者には、保育士が朝の朝食の量や睡眠時間などを詳しく聞いて、状況に応じて対応しています。

降園の時間には、保育士は汚れ物を整理しながら、親と親密に話し、「今日は初めてお箸を使った」「おしっこを自分でできた」等、園での様子を伝えていきます。園庭でも数人の保育士が保護者と立ち話をしています。夕方の担当である福祉員との間では、引き継ぎノートだけでなく、ケガや体調を崩した時は、その様子や状況など詳しく口頭で伝え、保護者に伝えるよう頼んでいます。

### まとめ

平屋建ての保育室は全体が見渡せ、園児も72名（定員は66名）という規模で、全保育士が全園児を把握し見守るなか、子どもたちは安心してのびのびと活動的に保育園生活を送っている様子でした。

障がいのある子どもや文化・風習の違う子どもに対して、保育士は細やかな配慮をし、周囲の子どもたちは、特に違和感なく、自然と仲間になっている感じがあります。

異年齢児との交流も、園庭や散歩、リズムの時間に自然と行われ、大きな子が小さな子の面倒を見たり、遊んであげるなど良い関係ができています。

ベテラン保育士が多く、特に、排泄、食事、けんかの仲裁、新しいおもちゃの入れ方などに安定感がみられ、どの子どもも放っておかれないという安心感があります。

また、園庭開放では、楽しみに来園する親子が多く、子どもは園児たちと一緒に遊び、保護者は保育士に育児相談をする姿に、当園が地域の子育て支援として、頼られている様子が伺えました。

## 事業者コメント

### \* 受審するに当たって

「ありのままの今宿保育園を評価してもらおう。そして評価結果から学び、その後の保育内容の向上にむけての課題とし改善していこう」と確認し合い受審を決めました。

職員の異動により、今宿保育園での勤務は1年2年目という保育士がほとんどで、それに加え園長は昇任したばかりの新任で不安がありました。しかし時間外福祉員や調理員は、今宿での経験が豊富でしたので、職員全員で協力し力を出しあうことで、積み重ねてきたことも学べるのではと気持ちを切り替えました。

業務マニュアルの整備や、自己評価をしていくにあたっては、話し合いと作業に大変時間がかかりました。自己評価の話し合いの中で、お互いの考えや認識の違いに気づくこともあり、A、Bのどちらをつけるかで議論することも。そしてBをつけたときには、「どうしたらAになるのかを話し合うことこそが大事」と、そこから再度話し合い。作業と話し合いの中気づいたことは即実施、そのチームワークの良さとスピードの速さに驚きました。園は少しずつ変わっていきました。まさに大きなきっかけとなったのです。

### \* 評価を受けて

子どもたちの、生き生きとした姿を見て頂けたこと、職員間の連携の良さを評価して頂けたこと、手作りの暖かさを感じて頂けたこと、本当に嬉しく思いました。そして保護者の皆様の、「総合的には満足している」という結果がなにより職員にとっての励みとなりました。

しかし、防犯上の不安、園と家庭との連携という点では、いくつかの改善点が求められています。すでにいくつか方法を検討（早いのが取り柄）実施に向けて動き出しました。業務マニュアル整備も、この間分担して作り上げてきたものについて、再度見直し“真の今宿マニュアル”を作っていくことを確認しあっています。子ども達にとっての環境（室内のスペースづくり、おもちゃ、職員・・・）が日々充実してきていること、職員間の信頼関係がよりいっそう深まったこと、大きな宝になりました。

評価をうけ これからが新たなスタートです。保育の質の向上をめざし研鑽を積み上げ、子どもたちが幸せになれる保育園づくりを続けていくことを確認しました。